

飲食店での迷惑動画が増加しています

飲食店で撮影された迷惑動画がインターネット上に拡散されるというニュースが相次いでいます。インターネット上の炎上は以前からも見られるものですが、昨今の傾向をもとに、子どもにどのようなことを伝えていくとよいのか考えてみましょう。

なぜ迷惑動画が撮影されるのか？

拡散された迷惑動画は主にInstagramやTikTok（ティックトック）といったスマートフォンで簡単に短い動画を投稿できるアプリで撮影されています。日常的に友達を撮影することに慣れている層では、カメラを向けられると場を盛り上げようと必要以上にふざけてしまい、結果、飲食店内での迷惑行為に繋がってしまうことがあります。

また、加害者の「こんなに広まるとは思っていなかった」、「身内しか見ないと思っていた」などの発言が報道されることも多く、一度投稿したものはコピーされて簡単には消すことができないことやSNSは世界中に公開されていることなど、インターネットの基本的な知識の不足も原因の一つと考えられます。



迷惑動画の代償

迷惑動画が拡散されるとどのような影響があるのでしょうか。まず、インターネット上で犯人探しが始まります。SNSの他の投稿などから個人を特定する情報が集められ、迷惑行為をしたのが誰なのか、個人情報と併せて拡散されます。次に迷惑行為の被害に遭った飲食店から警察へ被害届が出され、被害に応じた賠償金を求められることがあります。特に昨今は飲食店側も迷惑動画に対して毅然とした態度を示しており、謝ったら許してもらえないという状況ではありません。そして、例え本人が反省し罪を償ったとしても終わりではありません。インターネット上に一度拡散された情報は半永久的に残りますので、本人の後の人生に悪い影響を与え続けることになるのです。

インターネットで「迷惑動画」と検索すると昨今の迷惑動画の事例が多く挙がってきます。実際にそれを子どもと一緒に見て、「何がいけないのか」、「迷惑動画を投稿するとどうなるのか」を話し合う機会を作ってみましょう。多くの子は迷惑動画に対して不快感を持つと思いますが、迷惑動画を面白がるような場合は、もしやってしまったときの代償の大きさを考えさせ、絶対に軽い気持ちで撮影をしないように伝えてください。

